

## 平成 18 年度 学術ポータル担当者研修（名古屋地区）レポート

広島大学図書館

岡田英治(受講番号：19) 上田大輔(受講番号：18)

### (1) 発表資料の状況設定

学内の刊行物(主に紀要)をリポジトリに継続して登録してもらうために、バックナンバーと今後出版される刊行物の提出を紀要の編集・発行に携わる教員・院生・事務職員に依頼する。

### (2) 発表内容抄録

図書館が研究紀要などの学内刊行物の電子化を支援し、電子ジャーナルとして公開する。編集団体にとってのメリットは、新規の読者開拓・アクセス性の向上・大学全体としての効果的な発信などがある。お願いしたいことは、電子化と公開の許諾を取って頂くこととその刊行物を電子媒体または冊子体で送っていただくことである。電子化・公開の許諾は投稿規程に記載して頂くことが一番効果的である。バックナンバーの許諾については、すべての著者に連絡を取ることが難しい場合は、告知文を掲載するという方法がある。

### 講師からの助言

- ・場合によっては、編集責任者の合意でバックナンバーを公開できることがある。
- ・ページ付けがされていないファイルをもらうよりは、完成されたファイルをもらうほうがいいのではないかな？

### 発表資料改定部分

- 1) スライド 5 枚目のお願いしたいことに「許諾書の提出」を追加。
- 2) スライド 8 枚目のバックナンバーに「編集者責任者の一存により電子化を許可する」を追加。
- 3) スライド 3 枚目の図の「電子ファイル」を「電子ファイル（組版済）」に変更。

### (3) リハプレゼンの概要

発表時には紀要編集団体を一度に集めてプレゼンテーションを行うことを想定していたが、時間の都合等で一度に集まるのが難しかったため、個別訪問に切り替えた。

日時	場所	対象者	人数
9月14日	総合科学研究科 高谷研究室	高谷教授 (「民俗学研究」編集委員長)	1名
10月4日	理学研究科 数学専攻	HMJ 編集委員・事務担当職員	5名
10月12日	文学研究科	文学研究科研究科長・室長	2名

### (4) 対象者の感想および要望

- ・研究成果がより多くの人に読まれる可能性があることは良いことだ。書き手(院生など)のモチ

バージョンにもつながる。公開の許諾が取れる範囲からの登録をお願いしたい。投稿規定の変更についても検討を行う。

- 文学研究科では講座単位で学会誌を発行しており、バックナンバーを含めて電子化してもらえると、必要最小限の冊子体を保管しておけばよいので、スペースの有効利用にもつながり、非常に助かる。問題はやはり著作権。著作権処理の資料(実際にどのように許諾を取ればよいか)が分かる資料がないだろうか？
- 講座で発行している3つの研究会誌のうちNIIで電子化して公開している雑誌だけに頻繁に問い合わせが来るので、インターネットで公開することの意義は感じている。その他の2誌についても図書館で電子化をしてもらえると助かる。
- HMJについてはSPAC事業ですでにコーネル大学に過去分の電子化をお願いしている。理学部紀要のバックナンバーについては検討したいが、講座だけでなく研究科全体の話になるので、難しいかもしれない。

#### (5) その他

講座や研究室単位で発行している学会誌といった今まで電子化をしておらず、二次情報データベースにも収録されていない雑誌を電子化してリポジトリに登録することは、編集団体や書き手にとってのメリットも少なからずあり、登録に積極的な意見を伺うことができた。このような雑誌は、予算も少なく、比較的狭い範囲でしか流通していないため、リポジトリで登録し、公開することは非常に意義があると思う。今後も、すべての分野の研究者や学生の研究環境・学習環境をよりよいものにしていくために、メジャーな雑誌に掲載された論文だけでなく、このような雑誌の登録・公開にも積極的に取り組む必要があると考えている。

文学研究科への訪問の後に、文学研究科の講座発行している研究会誌の電子化を支援することをPRするパンフレットを作成した。